

The logo for OMEGAS, featuring the word "OMEGAS" in a white, sans-serif font. A small red triangle is positioned above the letter 'O', and a small blue triangle is positioned below the letter 'S'.

OMEGAS

環境報告書2008

The text "Environmental Report 2008" in a white, sans-serif font, located in the bottom left corner of the cover. The background of the cover is a lush green forest floor with various plants and ferns, framed by a large, stylized graphic element consisting of overlapping green and grey shapes.

Environmental
Report 2008



■ はじめに

今年が京都議定書の第一約束期間の2年目にあたります。昨年前半は北海道洞爺湖サミットで地球温暖化問題がメインテーマとなり大きな注目を浴びましたが、その後の経済危機の影響によって世の中の関心が後退しているようにも思えます。しかし、来年迎える中間年には、京都メカニズムや森林吸収源を考慮するにしても、温室効果ガスを目標である1990年比6%削減というレベルまでもっていかないと、残りの2年間の負担はさらに大きなものとなってしまいます。

一方で、今年の12月に開かれる気候変動枠組条約締約国会議(COP15)では、京都議定書以後の2020年の中期目標が決定されようとしています。これに向けて、政府は1990年比で最大25%削減から4%増加までの6つの案を検討し、最終的に中期目標を2005年比15%削減(1990年比8%削減)とすると発表しました。これは、長期エネルギー需給見通しで検討された「実用段階にある最先端技術の最大導入ケース」をベースとするもので、これを実現するための社会的負担は2020年までに約52兆円に達すると言われていています。この目標が更に高められるようなことになったなら、我が国の経済に与えるインパクトは計り知れないものとなるでしょう。

地球温暖化を食い止めるには、少なくとも2050年には世界全体の二酸化炭素排出量を半減しなければならないことは事実であり、そのために先進国は60%から80%の削減を実現することが必要なことも確かです。ただし、高度経済成長以前の暮らしに戻るならいざ知らず、現在の生活レベルを守ろうとするなら、これは現在の対策の延長線上では実現できません。実現するには二酸化炭素回収・貯留(CCS)などのような画期的な施策の実施が不可欠です。そして、その開発と運用には巨額の資金が必要となります。ですから、聞こえは良いが結果として経済を破綻させてしまうような無謀な中期目標の設定だけは、絶対に避けねばなりません。

代表取締役社長 中村 洋介

■ 会社概要

| | |
|------|--|
| 所在地 | [本社] 東京都青梅市新町8丁目8番地13号 [未広事業所] 東京都青梅市末広町2丁目10番地 |
| 設立 | 1960年(昭和35年) |
| 資本金 | 45,000,000円 |
| 事業内容 | 1. 都市ガス・簡易ガス及びLPGの供給、販売 2. CNGスタンド及びLPGスタンドの運営 3. ガス機器の販売及び設置 4. ガス配管工事の設計・施工及び施工管理 |
| 供給区域 | 青梅市内及び近隣市町村 |
| 従業員数 | 64名 |

■ 対象期間

2008年1月～2008年12月

■ 対象範囲

本社・未広事業所・付臭施設及び供給設備



▲ 本社(青梅市新町)



▲ 未広事業所(青梅市末広町)

❁ CONTENTS

| | |
|---------------|----|
| 目次 | |
| はじめに | 01 |
| 会社概要 | 02 |
| 対象期間 | 02 |
| 対象範囲 | 02 |
| 業種別販売量 | 03 |
| 環境理念 | 04 |
| 環境方針 | 04 |
| 環境への取組体制 | 05 |
| 2008年目標(中期計画) | 05 |
| 環境活動報告 | 06 |
| 地域環境活動への参画 | 11 |
| チーム・マイナス6% | 12 |
| 廃棄物処理について | 12 |
| 環境保全効果 | 13 |

■ 業種別販売量

▼ 都市ガス業種別販売量（2008年）

家庭用 31.8%

Public : 6,918,832 m³

商業用 8.3%

Commerce : 1,797,215m³

工業用 43.3%

Industry : 9,399,851m³

その他 16.6%

Others : 3,614,500m³

▼ 都市ガス供給区域（2008年）



■ 環境理念

青梅ガス株式会社は、資源とエネルギーの有効的活用を図り、公益事業者として環境関連法令及び「東京都・青梅市環境基本条例」を遵守し、自然環境に恵まれた街との調和を図り、豊かで安全な地域社会の実現に貢献します。

併せて、我々は企業活動を通じて、地域と地球環境保全に深く関わっていることを認識し、環境に優しい天然ガスの安全で安定した供給により、地域社会の発展に貢献します。

■ 環境方針

当社は、下記の事項を「環境方針」と定め、環境保全の推進に貢献します。

1. 環境負荷の低減・温室効果ガス排出削減への取り組み

- (1) 環境にやさしい天然ガスの普及促進を図ります。
- (2) 低環境負荷型ガス機器の普及推進に努めます。
- (3) 社内活動全般について、省資源、省エネ活動を展開し環境保全を推進します。
- (4) 企業活動に伴い発生する廃棄物の抑制及び再利用、再資源化に取組みます。

2. 環境マネジメントシステムに基づく取り組み

- (1) 環境マネジメントシステムを確立し、継続的な改善活動を行うことにより、環境汚染の予防を推進します。
- (2) 方針に基づき環境目的及び環境目標を設定し、定期的見直しを行います。

3. 法令等の遵守

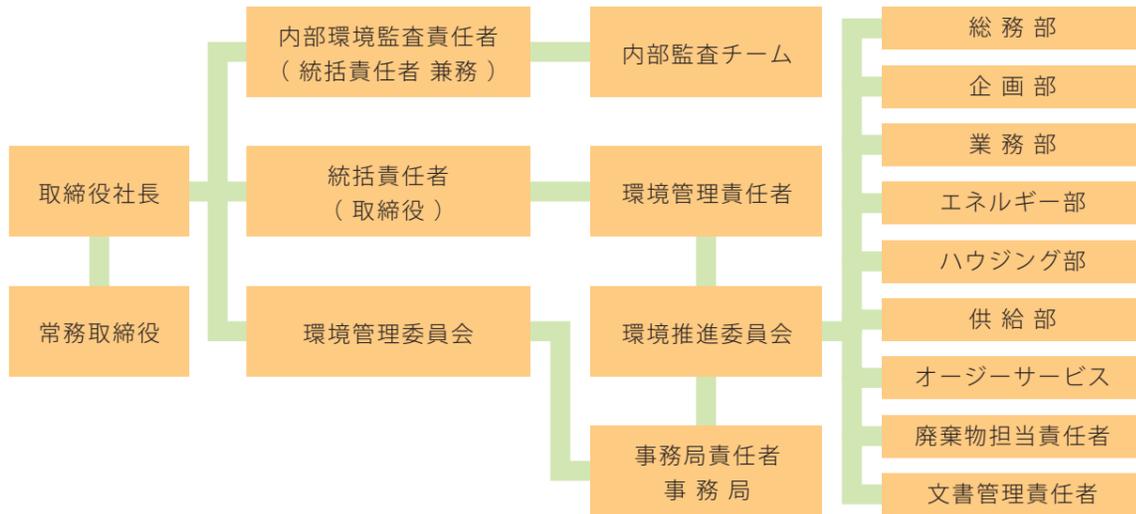
環境関連法令及び当社が同意する日本ガス協会等の関係組織によるその他の要求事項を遵守します。

4. 地域環境活動への参画

地域環境活動へ積極的に参加し、快適な社会の実現に貢献します。

～ この環境方針は、全従業員に周知すると共に一般に公開します。～

■ 環境への取組体制



■ 2008年目標（中期計画）

| 部・グループ | 2008年目標 |
|----------|---|
| 企画部 | 総務G 建物修繕計画立案 |
| | 高度化G 販売管理のシステム化 ガスクロマトグラフ分析・試験方法の改正 |
| 業務部 | 記録のデータ化・保存方法の検討 |
| エネルギー部 | 大口需要家への天然ガス拡販 新規獲得件数 2007年度(103件)比10%UP(10件) |
| | CNG車両のPR活動による新規獲得台数 2007年度(158台)比15%UP(24台) オートガス車両のPR活動による新規獲得台数 2007年度(586台)比3%UP(18台) |
| ハウジング部 | 天然ガスの提案活動による拡販 新規獲得件数 1,124件 新設獲得・他燃料からの転換 |
| | 内管工事竣工ファイルの管理 |
| 供給部 | 保安G ガスの安定供給と保安の維持・管理 |
| | 導管G 本支管材料・埋め戻し土木材料舗装工事の施工に伴う発生量の把握 |
| オージーサービス | 省エネ機器の拡販 2007年度売上比12% |

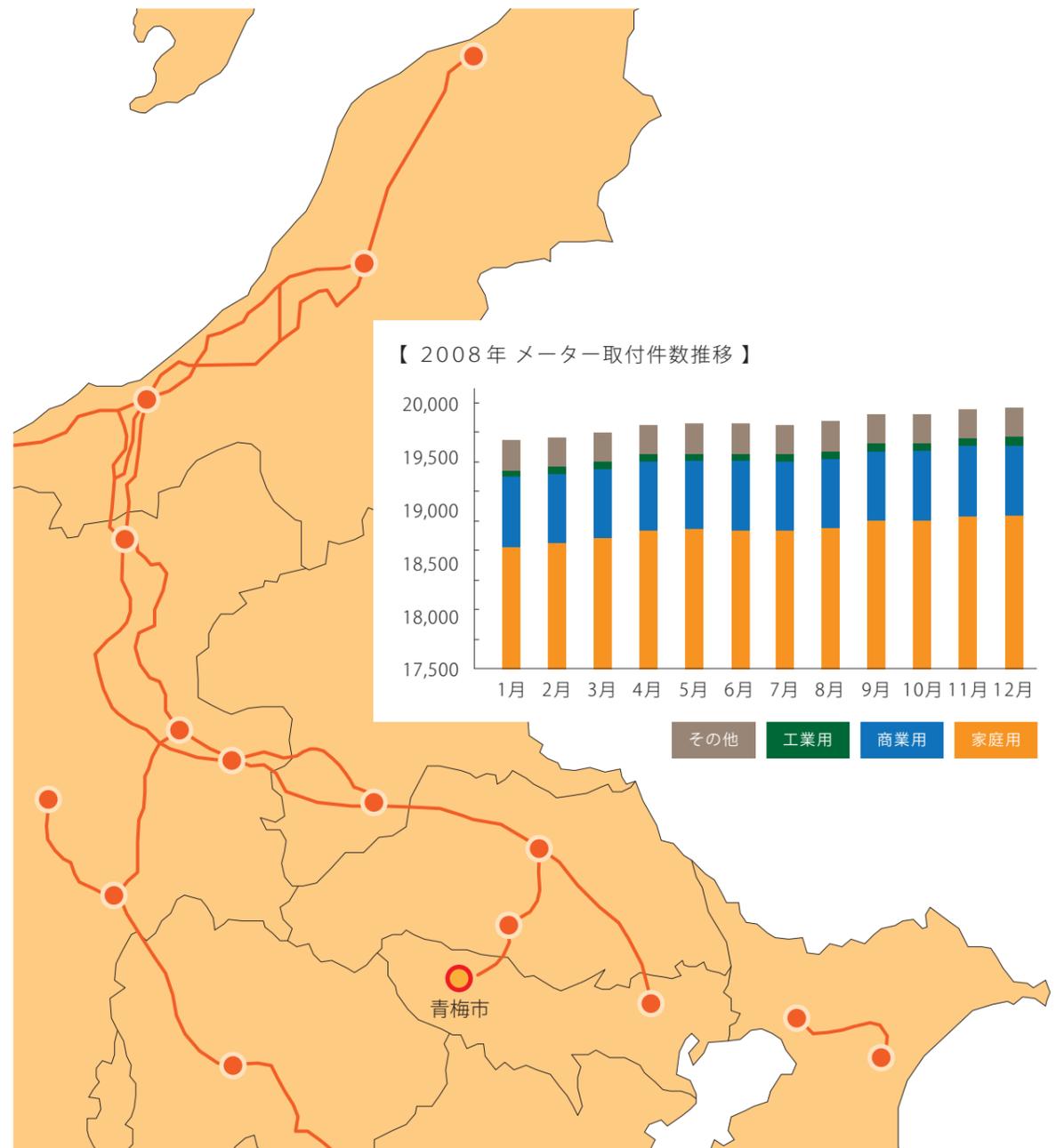
■ 環境活動報告

[環境負荷の低減]

(1) 環境にやさしい天然ガスの普及促進を図ります。

燃焼時に二酸化炭素(CO₂)の発生量が石油や石炭に比べて少なく、硫黄酸化物(SO_x)を含まない天然ガスの普及促進を図ることにより、地球環境保全に貢献しています。

また、弊社が供給している天然ガスは、新潟県長岡市からパイプラインで結ばれているため安定した供給が可能となっております。



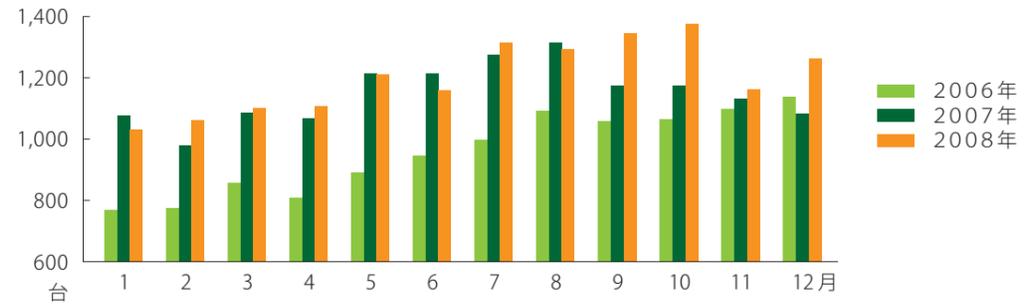
[環境負荷の低減]

天然ガスは、自動車の燃料としても使われています。天然ガス自動車（NGV）は、ガソリン車の二酸化炭素排出量に比べ約20～30%の低減が可能とされており、昨今、環境への取組みにご注力される多くの企業・団体様に関心をお寄せ頂き、業務・営業車両としてその普及台数も年々増加しております。

青梅ガスでは、天然ガス自動車（NGV）の燃料となる圧縮天然ガス（CNG）を充填する「天然ガス・エコステーション」を有しています。青梅市内に都市ガスとして供給されている天然ガスをコンプレッサーで圧縮し、天然ガス自動車に搭載されている燃料タンクへわずか数分で充填します。多摩西部地域において希少な天然ガス自動車燃料充填施設です。

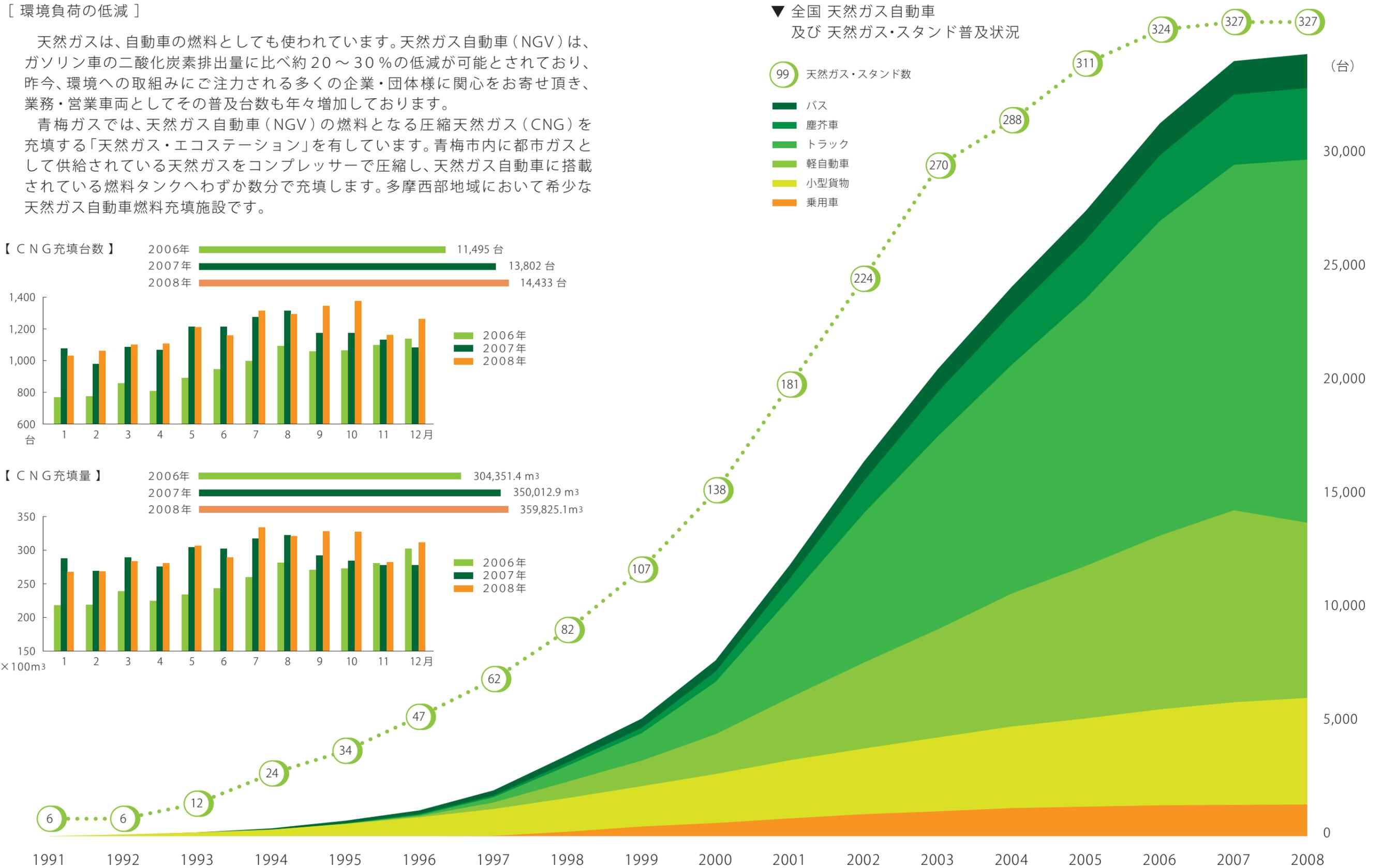
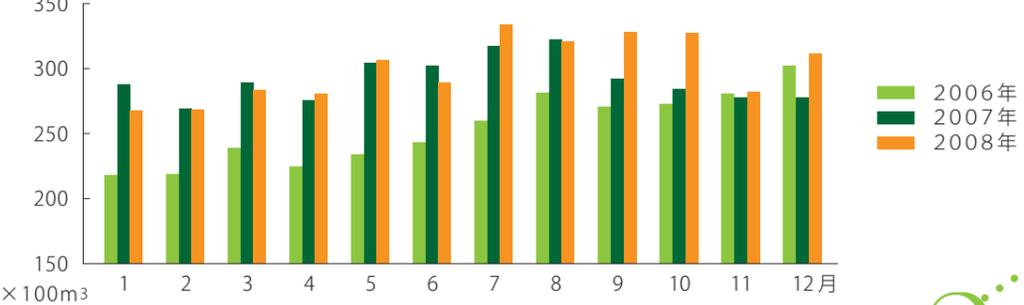
【 C N G 充填台数 】

| | |
|-------|----------|
| 2006年 | 11,495 台 |
| 2007年 | 13,802 台 |
| 2008年 | 14,433 台 |



【 C N G 充填量 】

| | |
|-------|--------------------------|
| 2006年 | 304,351.4 m ³ |
| 2007年 | 350,012.9 m ³ |
| 2008年 | 359,825.1 m ³ |



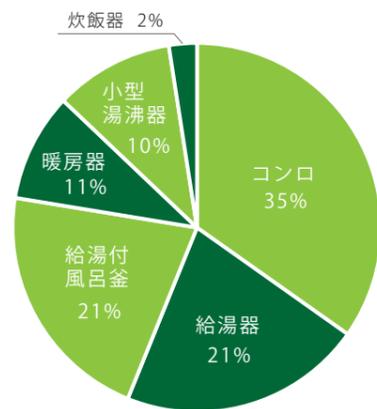
出典：(社)日本ガス協会 天然ガス自動車プロジェクト部 (平成20年9月30日現在)

[環境負荷の低減]

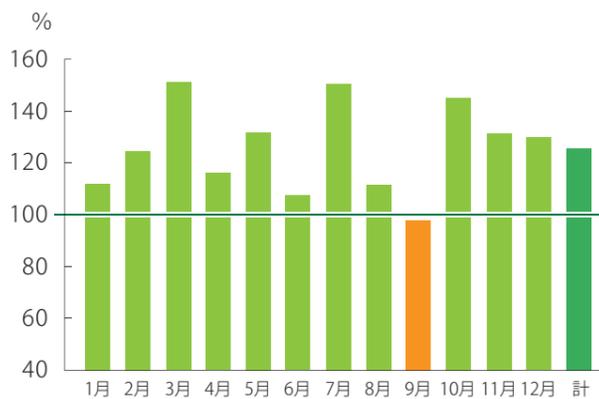
(2) 省エネルギー型ガス機器の普及推進に努めます。

ガス機器の販売については、省エネ機器の自主基準を設定し、対応機種の販売促進に努めています。省エネ機器の拡販によりCO₂の削減はもちろん、お客様の光熱費の節約にも繋がりCS向上の面でも意味のある活動です。省エネ機器の販売促進を通じ、お客様により安全に、安心してガスをご使用いただけるよう努めています。

【 ガス機器販売比率 】



【 販売目標達成率 】



(3) 社内活動全般について、省資源、省エネ活動を展開し環境保全を推進します。

2008年にOA周辺機器をグリーン購入法適合商品に入れ替えた結果、年間の削減効果は以下の通りとなりました。(企画部・1台)

| (OA複合器1台/年) | 旧機器 | 新機器 | 削減量 |
|---------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 消費電力量 | 997kWh | 189kWh | 808kWh |
| 消費電力コスト | 22,942円 | 4,357円 | 18,585円 |
| CO ₂ 排出量 | 554kg-CO ₂ | 105kg-CO ₂ | 448kg-CO ₂ |

今後も「エコ替え」を意識し、社内OA機器等の入替を進めて業務活動におけるCO₂排出量の削減に取り組んでいきたいと思っております。

[環境負荷の低減]

(4) 企業活動に伴い発生する廃棄物の抑制及び再利用、再資源化に取り組めます。

2008年よりガス管入れ替え作業で発生する産業廃棄物発生量の把握を開始しました。現在は、現状調査の段階ですが、今後このデータを元に発生量の削減に取り組みたいと考えています。

【 ガス工事産業廃棄物発生量 】



| | 廃棄物発生量 (m ³) | 新設管 1m 当り (m ³) |
|--------|--------------------------|-----------------------------|
| アスファルト | 523.9 | 0.16 |
| コンクリート | 80.1 | 0.03 |
| 残土 | 1,449.6 | 0.45 |

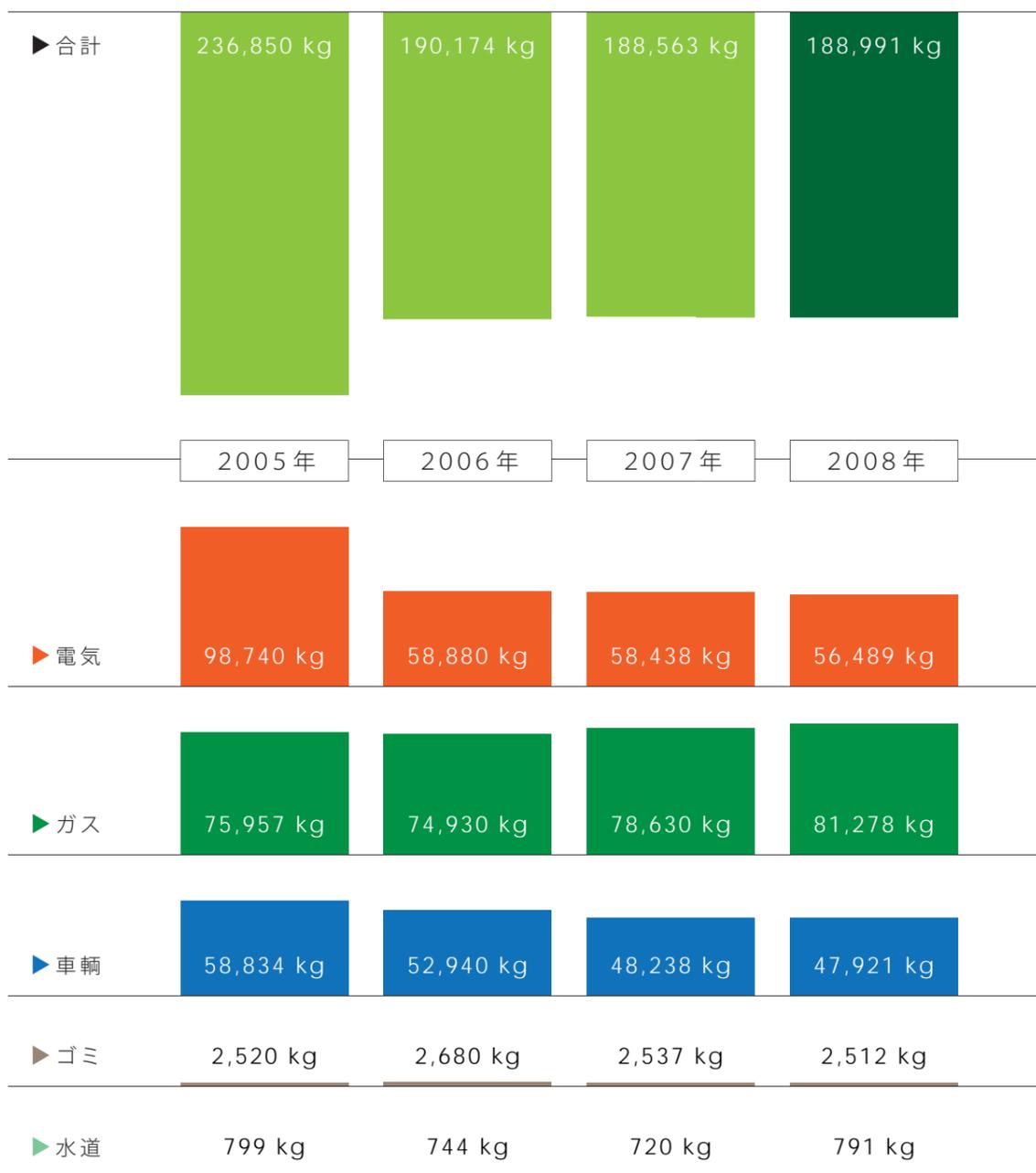
| ▼ 新設管 | | ▼ 撤去管 | | 発生量処分費 8,627,227円 |
|---------|----------|---------|----------|----------------------|
| PE200A | 209.0 m | PE150A | 1.0 m | |
| PE150A | 902.0 m | PE100A | 1.0 m | |
| PE100A | 269.5 m | VP50A | 1061.0 m | 発生材処分費 1,622,209円 |
| PE75A | 748.5 m | GP32A | 13.0 m | |
| PE50A | 620.0 m | KFW100A | 628.8 m | 処分費計 11,277,323円 |
| PE30A | 12.5 m | KFW50A | 1.0 m | |
| KPW300A | 148.5 m | KPN80A | 1.5 m | 処分費/本管敷設 3,523円/m |
| KPW100A | 231.8 m | 合計 | 1707.3 m | |
| KPW80A | 44.0 m | | | |
| KPW50A | 15.5 m | | | |
| 合計 | 3201.3 m | | | |

[環境負荷の低減]

(5) 社内全体での二酸化炭素排出量削減に取り組みます。

社内業務活動において、廃棄物分別推進による排出量の低減・水道やガス使用の抑制・非稼働時の照明の消灯・社用車のアイドリングストップ推進等によりCO₂の排出量を抑えるよう取り組んでいます。

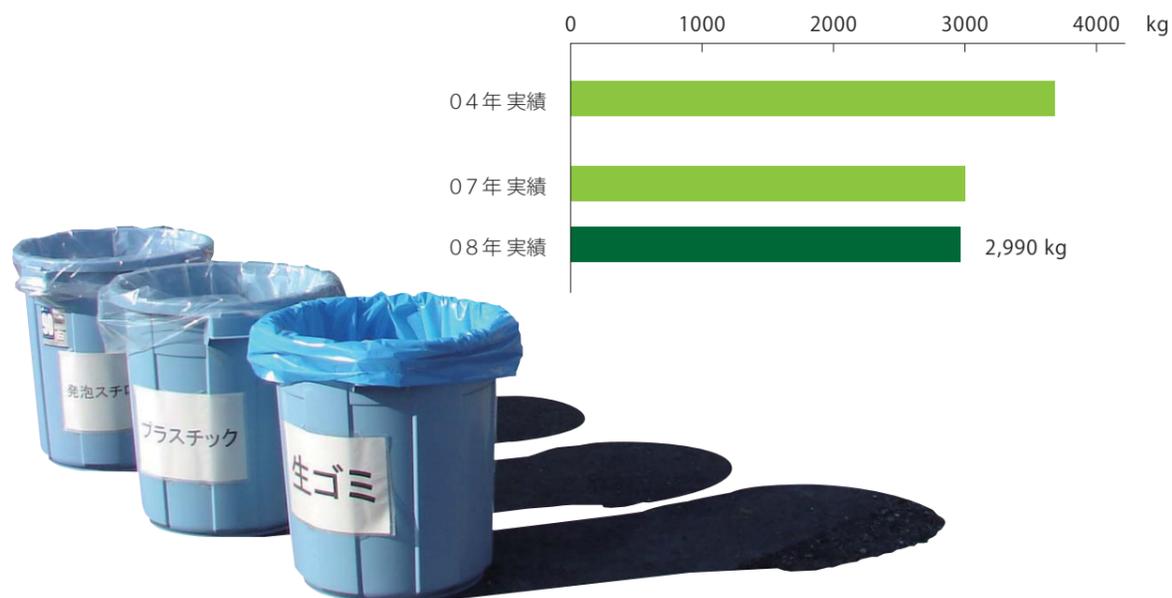
【二酸化炭素排出量】 単位：kg-CO₂



[環境負荷の低減]

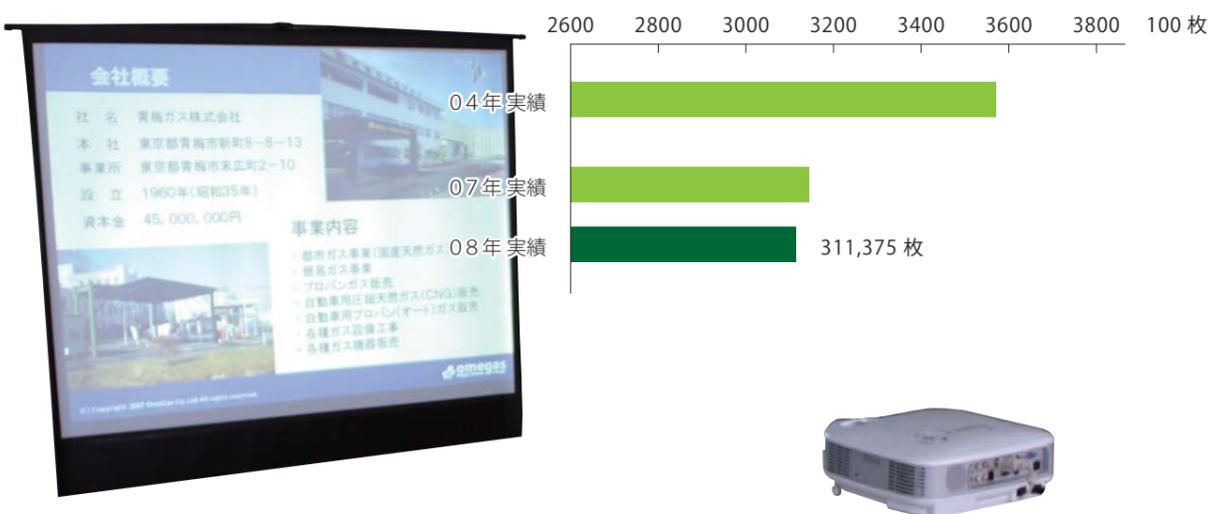
【 廃棄物年間排出量の推移 】

毎年ごみの分別に取り組んできましたが、本年はお客様感謝祭等のイベント時にお客様にも分別にご協力いただき、焼却ごみを削減することができました。
本年は2004年度比19.6%削減できました。



【 紙の使用量の推移 】

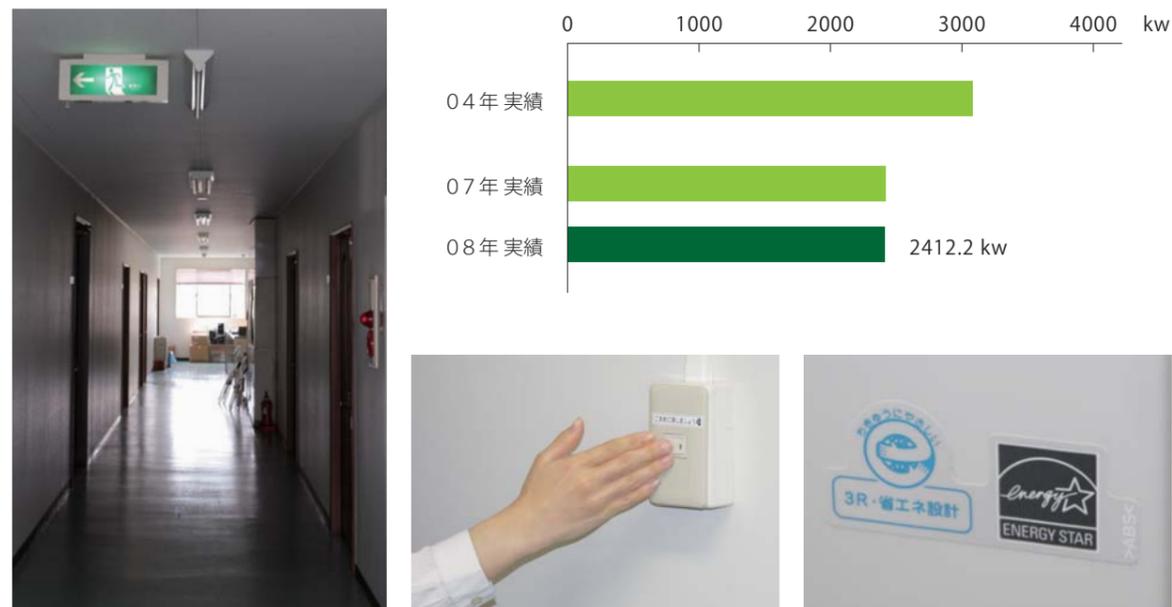
2008年度は目標を設定せず、紙使用ルールの維持管理に努めましたが、社内業務ではメール・プロジェクト・スキャナーの使用が進み、2004年度比12.9%削減となりました。



[環境負荷の低減]

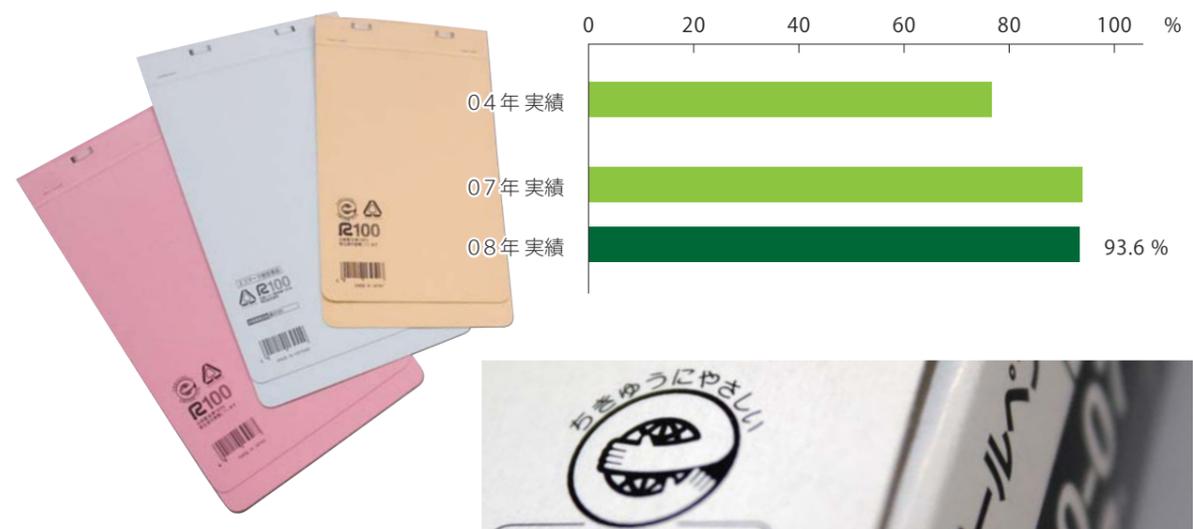
【 電気使用量の推移 】

2008年度は目標を設定せず、電力使用ルールの維持管理に努めましたが、事務機器の省エネ商品への入れ替えを行い、2004年度比21.7%削減することができました。
今後も社員一同削減に取り組みたいと思います。



【 グリーン購入率の推移 】

購入時に対象商品の見直しを行い、グリーン購入率93.6%となりました。
今後も随時見直しを行い、グリーン購入の推進に努めます。



■ 地域環境活動への参画

[事業所近隣の清掃活動]

毎月、本社および末広事業所近隣の路上清掃活動を実施しております。この活動を通じて各社員の環境に対する意識向上を図ると共に、この活動が将来的に近隣の皆様との環境コミュニケーションとして成長することを期待し活動しております。

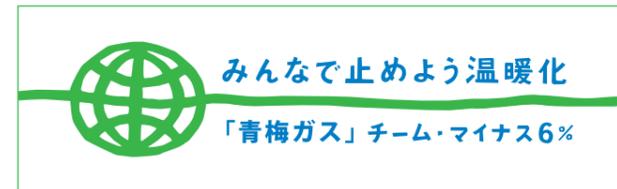


[市内中学校会社訪問]

「総合的な学習の時間（環境について）」のために来社した生徒の皆さんに環境保全の大切さ、ガス事業者としての取組みを説明しました。生徒の皆さんより多くの質問を頂き、当社にとっても有意義な時間となりました。今後もこのような活動を継続してまいります。

■ チーム・マイナス6%への参加

「チーム・マイナス6%」の活動に参加して3年目を迎え「クールビズ」「ウォームビズ」はもとより、廃棄物分別の徹底・エコドライブの推進・省電力の推進・省エネ商品の販売など業務活動のなかで温室効果ガス排出量6%の削減に貢献できるよう全社で活動を広げています。



28℃ 温度調節で減らそう
冷房は28℃に設定しよう

水道の使い方で減らそう
蛇口をこまめにしめよう

商品を選び方で減らそう
エコ製品を選んで買おう

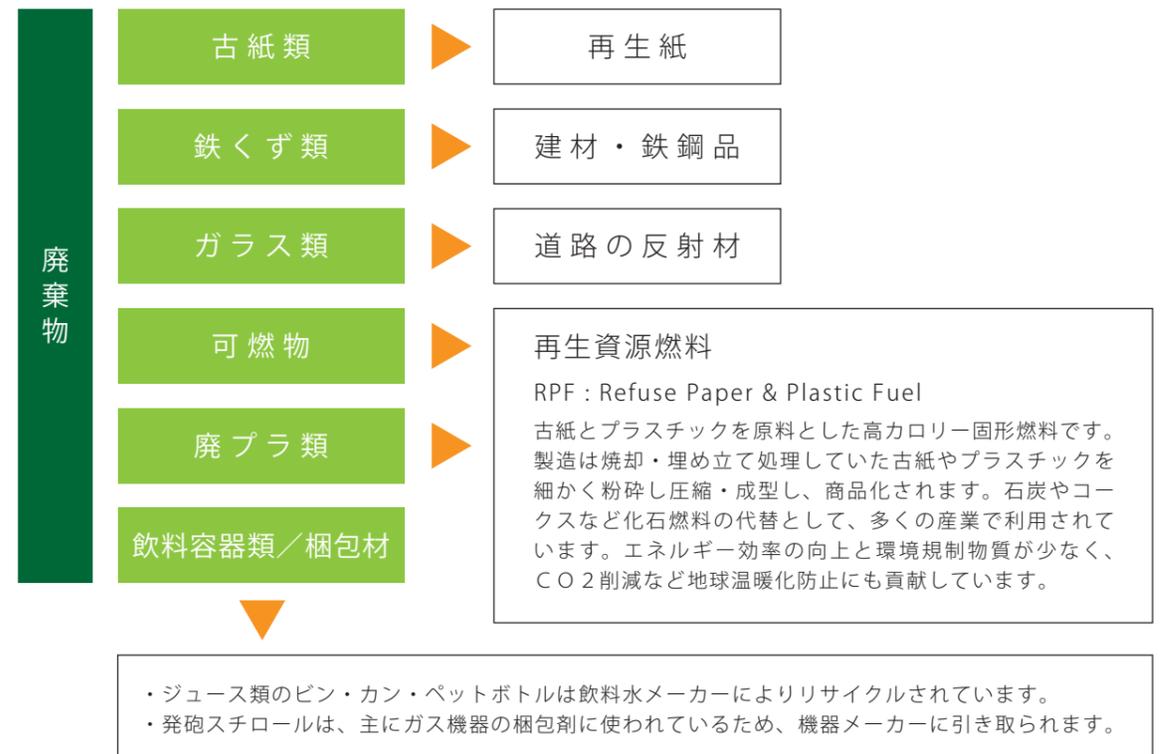
自動車の使い方で減らそう
アイドリングをなくそう

買い物とゴミで減らそう
過剰包装を断ろう

電気の使い方で減らそう
コンセントをこまめに抜こう

■ 廃棄物処理について

当社から排出される廃棄物は、リサイクルされ生まれ変わっています。産業廃棄物として排出している可燃ごみは、処理を委託している中間処理業者によりRPF化し化石燃料の代替固形燃料として利用されています。



青梅ガスの業務や天然ガスの環境保全に対する有効性について説明いたしました。

▼ 事業活動における環境保全効果

| 環境保全効果項目 | | | 2006年 | 2007年 | 2008年 | 環境保全効果 |
|------------------|--------------|--|---|---|--|---|
| 自 社 業 務 | 公害防止効果 | 本社・末広事業所 NOx 排出原単位 (都市ガス販売時に排出する NOx 量) | 0.97 mg - NOx / m ³ | 0.74 mg - NOx / m ³ | 0.69 mg - NOx / m ³ | 前年比 ▲ 0.05 mg - NOx / m ³ |
| | 地球環境保全効果 | 本社・末広事業所 CO ₂ 排出量 (電気・ガス・水道・車輦・廃棄物) | 190,174 kg - CO ₂ | 188,563 kg - CO ₂ | 188,991 kg - CO ₂ | 前年比 428 kg - CO ₂ |
| | | 本社・末広事業所 CO ₂ 排出原単位 (都市ガス販売時に排出する CO ₂ 量) | 10.5 g - CO ₂ / m ³ | 10.3 g - CO ₂ / m ³ | 8.9 g - CO ₂ / m ³ | 前年比 ▲ 1.4 g - CO ₂ / m ³ |
| | | 業務活動における車輦使用時の CO ₂ 排出量 | 52,940 kg - CO ₂ | 48,238 kg - CO ₂ | 47,920 kg - CO ₂ | 前年比 ▲ 318 kg - CO ₂ |
| | | 業務活動における車輦使用時の NOx 排出量 | 17.60 kg - NOx | 13.50 kg - NOx | 13.19 kg - NOx | 前年比 ▲ 0.31 kg - NOx |
| | 資源循環効果 | 業務活動において排出される可燃ゴミ排出量 ※ RPF (P.12 参照) により再利用されています。 | 3,190 kg | 3,020 kg | 2,990 kg | 前年比 ▲ 30 kg |
| 需 要 家 先 | 需要家先での環境保全効果 | 省エネ機器の拡販による CO ₂ 排出抑制量 | 2,108.86 kg - CO ₂ | 983.80 kg - CO ₂ | 3509.00 kg - CO ₂ | 省エネ機器への取替推進による CO ₂ 削減量 |
| | | 他燃料からの転換による CO ₂ 排出抑制量 (一般家庭) | 1,561.13 kg - CO ₂ | 1,088.19 kg - CO ₂ | 5,765.40 kg - CO ₂ | 都市ガスへの転換による CO ₂ 削減量 |
| | | 他燃料からの転換による CO ₂ 排出抑制量 (法人) | 7,855.28 kg - CO ₂ | 11,250.30 kg - CO ₂ | — | LPガスへの燃料転換による CO ₂ 削減量 ※本年度は、天然ガス普及に努めた結果、実績なし。 |
| | | 他燃料からの転換による CO ₂ 排出抑制量 (法人) | 250,983.08 kg - CO ₂ | 196,326.90 kg - CO ₂ | 1,721,898.00 kg - CO ₂ | 都市ガスへの燃料転換による効果 |

| 環境保全効果項目 | | | 2006年 | 2007年 | 2008年 | 環境保全効果 |
|------------------|---------------------|-----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|-----------------------------------|-------------|
| 自 社 業 務 | 廃棄物削減による経費削減額 | 廃棄物排出量抑制による経費削減 | ¥ 255,200 - | ¥ 241,600 - | ¥ 239,200 - | ▲ 2,400 円 |
| | 掘削発生土の排出量削減による経費削減額 | 浅層埋設・掘削幅縮小工法の実施 (1m当たりの掘削土処分費) | ¥ 9,648,592 - (¥ 3,780 / m) | ¥ 9,608,022 - (¥ 3,728 / m) | ¥ 11,377,323 - (¥ 3,523 / m) | ▲ 205 円 / m |

● 二酸化炭素排出削減量を杉の木の吸収量に換算すると！

弊社では、主な事業活動において約1,730トンのCO₂を削減しました。この効果は、123,526本の杉からなる約148ヘクタールの森林が1年間に吸収するCO₂の量に相当します。この面積は、国営昭和記念公園の公園面積とほぼ同じ広さになります。(杉1本の年間CO₂吸収量14kg、平均占有面積12m²として算出しています。)

写真(右)：「国営昭和記念公園」(1989年)国土交通省 国土画像情報(カラー空中写真)



● 環境保全効果の算定について

- ・一般家庭における効果算出は、4人家族で風呂に200L湯張り、シャワー、洗面、炊事にお湯を使用した場合を想定しています。(株式会社ノーリツの給湯機器カタログにおける試算条件より)
- ・CO₂排出係数は、「地球温暖化対策の推進に関する法律施行令」による係数を使用しています。
- ・機器の熱効率率は、株式会社ノーリツのカタログに従っています。(灯油給湯器熱効率率は、製造後10年の機器効率率を使用しています。)
- ・「木に換算」とは、それだけの量のCO₂を吸収するとされている「杉の木」の本数のことです。植物は、一般にCO₂(二酸化炭素)を吸収しO₂(酸素)を放出します。「杉の木」1本当たり1年間に平均約14kgのCO₂を吸収するものとして試算しています。参考資料：「地球温暖化防止のための緑の吸収源対策」吸収量は年間14kgで換算。また、杉の木16本が作り出す酸素の量は、人が一年間に必要とする酸素の量と同じといわれています。

Environmental Report 2008

表紙画像（コケ植物）について

蘚苔類（コケ植物）は環境の変化に対して敏感なため、環境の良し悪しを示す「環境指標生物」とされています。

環境省の公表する「レッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト）植物Ⅱ」（平成19年公表）によると、蘚苔類約1,800種のうち我が国ではすでに絶滅したと考えられる種が1種、絶滅のおそれのある種が229種、現時点では絶滅危険度は小さいものの生息条件の変化によっては「絶滅のおそれのある種」に移行する可能性のある種が22種、評価するだけの情報が不足している種が33種、計285種（蘚苔類全体の約16%に相当）が掲載されています。

平成9年（平成12年一部変更）に公表された「レッドリスト」では、蘚苔類の掲載種数は238種であり、10年間で47種がこのリストに追加されました。

青梅ガス株式会社

〒198-0024 東京都青梅市新町8丁目8番地13

 **omegas**  0428-31-8111
<http://www.omegas.co.jp>  info@omegas.co.jp